

教育研修

No.147 (令和6年7月1日)



本校では、旭川市西神楽ホテルの会と連携し、ホテル学習に取り組んでいます。第一学年では、西神楽の地域とホテルの歴史を学び、ホテルの生育観察や放流体験をしています。また、毎年五月には、「西神楽パークセンター」の清掃活動、七月には「ホテル祭りin西神楽」に全校生徒で参加するなど、地域と歩む持続可能な教育の実現を目指した取組を推進しています。特に、ホテル祭りでは来場された一般市民や観光客の方々に道案内をしたり、ホテルに関わる展示発表を行ったりするなど、地域の教育資源を最大限に活用しながら、子どもたちの豊かな心を育む情操教育の充実にも繋げています。
(旭川市立西神楽中学校)

おもな内容	ページ
随想	1
研修講座寸描	2
研修室だより	3
研究協力校の紹介	4
教育講演会の紹介	5
受講後調査の結果	6
心に残る授業その89	7
人事短信(研修センター所員紹介)	8



随想 「寛容」が「肝要」

上川教育研修センター
所長 伊東 義 晃

ハラズメントがなくコンプライアンス意識が高い社会を築いていくことは、とても重要であると思うのですが…。

さて、日本でのハラズメントという言葉は、平成元年、職場での「セクハラ(以下〇〇ハラと略)」を問う裁判が初めて起こされ、同年「セクハラ」が新語・流行語大賞を受賞することで広く認知されるようになったようです。その後は、権力や地位の優位性を背景とした「パワーハラ」をはじめ、個別具体的にライフステージに密接な課題となる「アカハラ」「マタハラ」なども取り上げられるようになりまし。現在では、「カスハラ」「アルハラ」「オワハラ」など約二十種類に細分化が進む一方、言動や行為への厳しさこそがハラズメントという「ハラハラ」の問題も増加しているとか。一方、過度なハラズメントとコンプライアンス意識によって、人間関係がぎくしゃくし、生きづらい社会になっているとの声も聞かれます。

今年一月から三月にかけて放映されたドラマ「不適切にもほどがある」。扱いが難しいハラズメントやコンプライアンス問題をとり上げ、主人公の阿部サダヲ

を中心にクセツヨ風に扮した俳優陣が、コミカルに演じるタイムスリップコメディとして大きな話題をよびました。

主人公・市郎(中学教師)は、ひよんなことで昭和六一年から令和の現代へ。昭和のダメおやじの不適切発言が令和の停滞した空気をかき回すのです。一方では、市郎の極論が、今を生きる我々に、人間関係の在り方について改めて考えるキツカケを与えるのです。特に、毎回定番のミュージカルのシーンでは、より前向きで穏やかに生きていくためのヒントとなる言葉を投げかけます。最終話では、令和から昭和に戻った市郎と、昭和から令和に戻ったサカエ(吉田羊)がお互い“今”に違和感を抱え、キャスト勢揃いで「もつと寛容になりましょう」「大目にみましよう」などの歌詞に思いを詰め込み、「寛容」というキーワードを一つの答えとして示し幕を閉じました。

前述した問題を簡単には解決できませんが、我々が穏やかに暮らしていくためには、いつの時代も「寛容」が大切であるということに改めて心に刻みつつ、ぜひとも本作の続編を期待しています。「寛容」にならないとイカンヨウ!

本校では、一昨年度よりスクールランチコープさつぽろより供給)が開始されました。お弁当に慣れ親しんできた子どもたちですが、いまではスクールランチにしっかりと馴染んできました。一年生にも入学直後から笑顔が広がって食育を通じて、「食べる力」「生きる力」を育むことは、本校においても重要な課題です。スクールランチや食育授業を通じて、食に関する知識を身に付けさせ、健康的な食生活を実践させることで、子どもたちが心と身体の健康を維持し、生き生きと暮らしていくことを職員一同で目指しています。(愛別町立愛別小学校)



センター日誌

- 四月一日 新任所員着任
- 四月十七日 講座内容研究協議会
- 四月四日 【学校経営Ⅰ】
- 六月六日 ICT【タブレットPC入門】
- 六月十日 ICT【表計算入門】
- 六月十三日 【特別支援教育①】
- 六月十八日 【センター研究発表会Ⅰ】
- 六月十九日 【学級経営と教育相談】
- 六月二十日 ICT【校務でのタブレットPC活用】
- 六月二十六日 【読書活動】
- 六月二十七日 ICT【校務のための表計算/クラウド活用】
- 七月一日 センターだより第一四七号発行
- ※毎週火曜日 定例研究室会議
- ※随時 研修講座講師打合せ会議

研修講座寸描 研修講座内容研究協議会

四月十七日、二十五講座の講師四十一名に御参加いただき、今年度の講座内容研究協議会を開催しました。

開会式では、野崎幸宏教育長より御挨拶をいただき、石前聖香副所長より研修事業の報告と計画の概要について説明いたしました。

その後の分科会では、教職全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指して、講座内容や日程等について具体的な話し合いが行われました。

研修センターでは、近年の教育動向や受講者のニーズに応える講座内容を実施しております。小中の連携を重視し、小中の研究授業を取り入れた講座、今日的な教育課題を踏まえた講座、演習・実技等を取り入れた講座など、研修内容を広く教育現場で活用できるように考えております。皆様の受講をお待ちしております。



ホットな夏、ホットな研修を

夏季休業中の研修講座申込みを随時受け付けております。クーラーの効いた当センター会場で研修を深めませんか？受講を希望される場合は、上川教育研修センターホームページの「研修講座開催要項」P23（一般研修講座）・P25（ICT実技研修講座）に掲載されております申込書をお使いいただき、研修センターのFAX（0166-24-2512）にお申込みください。

※ICT実技研修29日（月）「授業でのタブレットPC活用①」「校務でのタブレット活用②」は、定員に達しております。

開催日	研修講座名	会場	備考
7月24日（水）	幼保小連携教育	研修センター	
7月24日（水）	表計算入門①	研修センター	ICT実技研修
7月24日（水）	校務のための表計算①	研修センター	ICT実技研修
7月25日（木）	道徳科指導①	研修センター	2日目 9月 3日（火）
7月25日（木）	授業のためのプログラミング入門①	研修センター	
7月26日（金）	国語科指導①	研修センター	2日目 9月10日（火）
7月29日（月）	理科指導①	研修センター	2日目10月 2日（水）
7月29日（月）	授業でのタブレットPC活用①	研修センター	※ICT実技研修
7月29日（月）	校務でのタブレットPC活用②	研修センター	※ICT実技研修
7月31日（水）	学校事務実務	研修センター	
8月 1日（木）	算数・数学科指導①	研修センター	2日目 9月25日（水）
8月 2日（金）	外国語（英語）指導①	研修センター	2日目 9月27日（金）
8月 5日（月）	社会科指導①	研修センター	2日目10月31日（木）
8月 6日（火）	令和の日本型学校教育	研修センター	
8月19日（月）	学校と地域の連携・協働	研修センター	

上川教育研修センター 第20次研究1年次スタート

研究室では、2人の新しい研究員を迎え、第20次研究の1年次をスタートさせました。現行の学習指導要領が実施されてから5年が経過し、折り返しの時期の今、改めて「主体的・対話的で深い学び」の視点について再考することが、「令和の日本型学校教育」の実現に向け必要であると考えました。6月の研究員によるセンター研究発表会Ⅰをはじめ、9～10月には研究協力校2校（旭川市立東五条小学校、旭川市立東鷹栖中学校）による授業実践、そして12月に研究員によるセンター研究発表会Ⅱを行い、研究内容について検証を行う予定になっています。

令和6年度は開かれた研究室を目指し、上川教育研修センターのwebサイトも一層活用しながら研究を進めてまいります。研究授業の期日が近づきましたら、各校に御案内させていただきますので、改めて「主体的・対話的で深い学び」について一緒に考えましょう。

研究主題

求められる資質・能力を育む学習指導の在り方

～子どもを主語にした主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～

求める児童生徒像

「知識及び技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力等」を高め、「学びに向かう力・人間性等」を涵養し、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら深い学びに向かっていく児童生徒。

研究の仮説

「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図ることで、児童生徒の学習や教師による指導の改善等につなげ、組織的かつ計画的に教育活動の質が向上し、児童生徒に求められる資質・能力が育成されるであろう。

研究内容

子どもを主語にした主体的・対話的で深い学びの実現

研究内容1 ～子どもの思考に沿った単元デザインの工夫～

- (1)見通し、課題設定
 - ・児童生徒の実生活や実社会と繋がりのある課題の設定
 - ・学習過程のイメージ、目指すべき姿のイメージの共有
- (2)自己決定、自己選択
 - ・「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を児童生徒が自ら決定する場面の設定及び工夫
- (3)単元レベルでの振り返り
 - ・学習内容の確認、既習事項との関わり、自己変容の把握等のための、振り返りの方法や場面、タイミングの吟味

研究内容2 ～児童生徒の深い学びを充実させる本時の授業展開の工夫

- (1)発問
 - ・児童生徒が「見方・考え方」を働かせる「発問」の工夫
- (2)必要感のある学び合い
 - ・「交流」の場面における「アウトプット」の工夫
- (3)本時レベルでの振り返り
 - ・「振り返り」の場面における「アウトプット」の工夫

ICTの効果的な活用

ICT

- ・多様で大量の情報の収集、整理・分析、まとめ・表現
- ・児童生徒の思考の過程や結果の可視化
- ・情報の双方向性による瞬時の情報共有等

研究室では、週に1回程度、上川教育研修センターにて研究室会議を行い、上川管内の先生方にお伝えする研究内容を協議しております。



令和6年度「研究協力校の紹介」

旭川市立東五条小学校

一 学校概要

本校は、旭川市内を貫流する石狩川とその支流牛朱別川とに挟まれた新旭川地区にあり、開校当時より農業と準工業地帯として栄え、市の中心部に隣接している住宅地としても発展してきました。開校当時の「赤レンガの校舎」は、近代的設備の充実したモデル校であり、昭和二十九年には天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いでいます。

二 教育目標

□教育理念 「日本の力となる子ども」

□教育目標 「かしこさ ゆたかさ たくましさ」

三 年度の重点

「学びから自他のよさを感じ、夢や希望に向かう子どもを育てる」という重点目標のもと、学校生活の大半を占める授業を不断に、確実に改善することを目標に、「UDLを軸としたヒガゴ型問題解決的学習の確立」「PBISを軸としたヒガゴ型ポジティブ子ども支援」を研究の基軸に据え、「自ら学びに向かい、学びを舵取りできる子どもの育成」を目指し職員全員意思を一つに研究を推進しています。

また外部人材を積極的に活用した社会とのコラボレーションにより、リアル体験を通じた「生き方のロールモデル」を子ども達にイメージさせる取組も進めています。



旭川市立東鷹栖中学校

一 学校概要

本校は、旭川市の最北に位置し、遠くには大雪の峰々を望み、恵まれた自然と、豊かな田園に囲まれています。一九四七年（昭和二十二年）に開校し、今年で七十七年目を迎えます。

令和六年度は、学級数七学級（特支を四含む）、生徒数百八名です。全校生徒は、明るく素直で伸び伸びと学校生活を送っています。

二 教育目標

『自主性に富み 創造力豊かな生徒』

三 年度の重点

全校生徒と全職員で「自分の考えをもち、学び合いを通して、自己表現できる教育の充実」を年度の重点としています。

- ①周りの状況や相手の気持ちに気づく。
 - ②気づいたことに対して何ができるか考える。
 - ③考えたことについて正しい判断で行動に移す。
- これらをもとに、何事にも挑戦できる生徒の育成を目指し、生徒一人一人の資質・能力を高められるように教育活動を工夫し、推進しています。



昨年度のセンター発表会の様子



上川教育研修センター

教育講演会

日時 令和6年8月20日(火) 10:00~11:50

開会式	10:00~10:10
講演	10:10~11:40
閉会式	11:40~11:50

場所 上川教育研修センター

※オンラインでも受講することができます。

演題 「令和の日本型学校教育を考える」
～主体的、対話的で深い学びの実現～ (仮)

講師 北海道教育大学附属函館中学校 副校長
元：文部科学省国立教育政策研究所
教育課程研究センター研究開発部
学力調査官兼教育課程調査官
くろだ さとし
黒田 諭 氏



【講師紹介】

平成 5年4月～平成13年3月	北海道公立中学校・教諭
平成13年4月～平成24年3月	北海道教育大学附属函館中学校・教諭
平成24年4月～平成27年3月	北海道教育委員会・指導主事
平成27年4月～令和 4年3月	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 学力調査官／教育課程調査官
令和 4年4月～	現職

教育界には課題が山積しております。ぜひ「教育講演会」に御参加いただき、お一人お一人が抱える課題の解決に努めていただければと考えております。多数の皆様の御参加をお待ちしております。

Webサイトを御利用ください!

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

今年度の研修講座開催要項や各種申込書、R5年度研究紀要等がダウンロードでき、過去の研修講座の様子やセンターだよりを見ることもできます。右の2次元コードをスキャンしても、「令和6年度研修講座開催要項」と「令和5年度研究紀要」が御覧いただけます。

また、センターで所蔵している資料名を閲覧できますので、お探しの資料があれば貸出しすることも可能です。さらに、施設の使用についても詳細を見ることができます。ぜひ、御活用ください。



【令和6年度
研修講座開催要項】

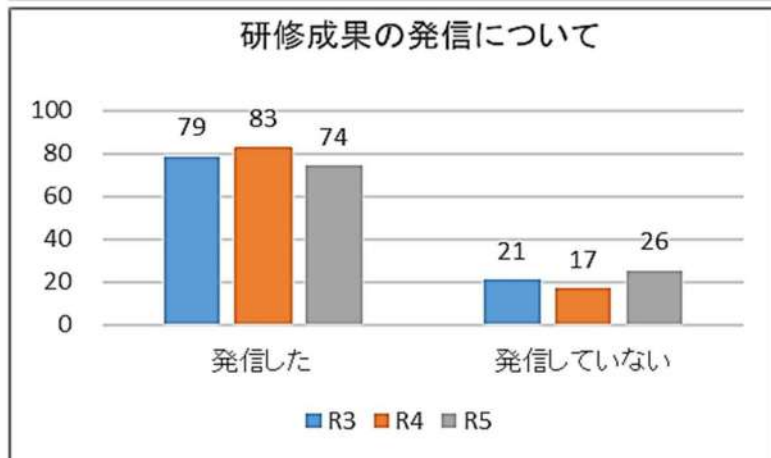


【令和5年度
研究紀要】

令和5年度 受講後調査の集計結果 ～御協力ありがとうございました～

当研修センターでは、研修講座の受講後2～3か月を目処に御回答いただく「受講後調査」を実施しました。お忙しい中にもかかわらず御協力をいただきまして、ありがとうございました。令和5年度の結果をまとめましたので、お知らせいたします。

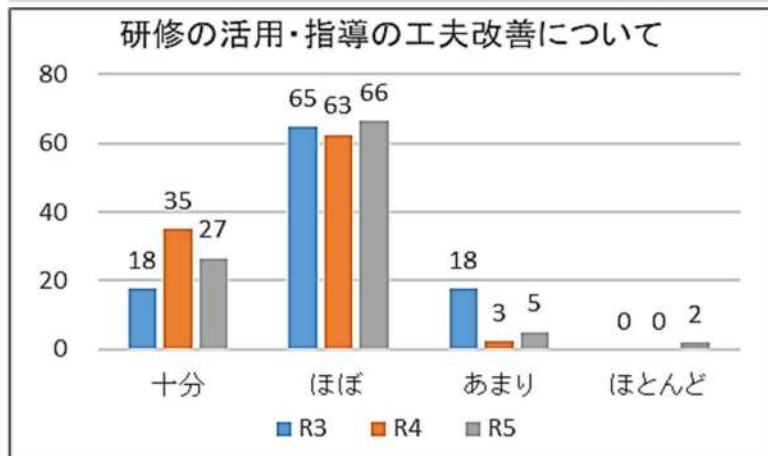
設問1 研修終了後、児童生徒や同僚教職員、他の学校の教職員等に研修成果を発信することができましたか。



研修の成果について、多くの方に活用していただいております。

より多くの方に発信していただけますよう、受講者はもとより、広く教育現場に生かされるような講座運営を目指し、工夫改善してまいります。

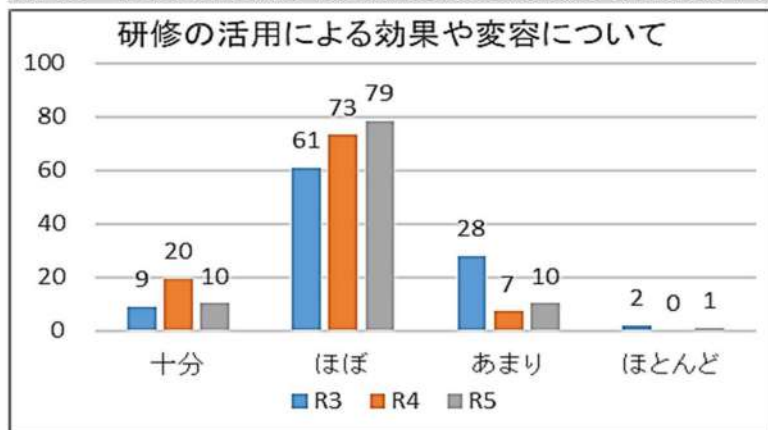
設問2 研修終了後、自校や校外研修会等で、研修内容を活用し、自己の指導内容や方法の工夫改善ができましたか。



「十分みられた」、「ほぼみられた」を合わせると、93%の受講者から自己の指導内容や方法の工夫改善ができたという回答をいただきました。

今後もさらに多くの皆様が実践に生かすことができる講座内容となるよう努めてまいります。

設問3 研修内容を広げたり活用したりした結果、児童生徒や対象の教職員に効果や変容がみられましたか。



「十分みられた」、「ほぼみられた」を合わせると、89%の受講者から効果や変容がみられたという回答をいただきました。反面11%は「あまりみられない」「ほとんどみられない」という回答でした。

受講アンケートを生かしながら、より実践的な研修内容になるよう努めてまいります。

講座の成果を推し測り、より多くの受講される皆様の御意見を反映するため、当研修センターのWebサイトや2次元コードから簡単にアクセスできるようにしております。

今年度も2～3か月を目処に、当研修センターWebサイト上で、御回答ください。タブレットや携帯端末からも御回答いただけます。御協力をよろしくお願いたします。

「受講後調査」2次元コード



※この調査は、受講後、約2～3か月
※左の2次元コードをスマホなどで読み取ると回答できます。

(google フォーム 外部リンク)

心に残る授業 その89



旭川市教育委員会
教育指導課主査
沼澤 和 範

現行の学習指導要領解説（算数・数学編）には、算数・数学の問題発見・解決の過程を意識しつつ、児童生徒が目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるようにすることが重要であると記されています。

さて、私の心に残る授業は、令和三年度に参観した中学校第二学年の数学「箱ひげ図」の授業です。私が参観したのは、現行の学習指導要領に新設された内容であり、授業者にとっても初めての指導となる単元の一時間目の授業場面でした。

始業とともに授業者は、大谷翔平選手の話を始めました。当時大谷選手は、投手と打者の二刀流で一〇三年ぶりにベーブ・ルースの記録を抜くことができるのではないかと期待されていた時でした。ある新聞社の記事では、大谷選手の登板日ごとの球速を箱ひげ図を用いてまとめ、記録更新の可能性について分析していました。この記事が教材に授業を展開するため、野球に興味の無い生徒も話題についていくことが出来るよう、生徒とのやりとりの中で、二刀流の意

味や大谷選手の活躍について丁寧に話を進めていきました。

そして大谷選手の活躍を動画で見た後、新聞記事にある生徒にとっでは初めての箱ひげ図を提示された時には、生徒一人一人が「この図って何だろう？」「この図の線は、何を表しているんだろう？」「新聞社は、別の図ではなく、なぜこの図を使って大谷選手の球速をまとめたんだろう？」「この図を使うとどんないいことがあるのかな？」などと、主体的に箱ひげ図の必要性やその意味について解決しようとする状況になっていたのです。まさに、日常生活や社会の事象の中から問題を発見し、生徒自らが目的意識をもって学習に取り組む姿がそこにありました。

授業された先生は、この四月、新卒の期間を終え、二校目へと転出しました。きっと今日も生徒の興味を引き出し、生徒のつまずきを生徒と共に解決しながら、主体的に学習に取り組むことのできる生徒を育てていることと思います。

なお、その授業は、授業改善推進事業映像版実践資料でも紹介されていますので、ご覧いただければ幸いです。

<https://youtu.be/HqUgWD0awhY>



出前講座を御活用ください！

教科指導をはじめ、生徒指導・特別支援教育・今日的な教育課題・ICT活用・各種実技指導など、各学校の校内研修や教育研究団体の様々なニーズに合わせて、選りすぐりの講師を派遣しています。

今年度の一次受付と二次受付は終了していますが、予定している開設数までまだ空きがございます。上川教育研修センターのホームページに掲載しております「令和6年度 研修講座開催要項」のP24「出前講座申込書」に必要事項を御記入の上、直接当センターへFAX（0166-24-2512）で送付してください。ぜひ、御活用ください。

【講座内容例】

教科等指導（国、算等）	指導計画，評価，言語活動，校内研修にかかわる事項等
ICTの活用	タブレットPC活用，ICT活用，メディアリテラシー等
各種実技指導	器械運動（体育），木版画（図工），毛筆（書写）等
特別支援教育	発達障害の理解，個別の支援計画，交流および共同学習等
生徒指導	構成的グループエンカウンター，教育相談，カウンセリング等
今日的な教育課題	学力向上，外国語（英語），幼保小連携，小中連携等

上川教育研修センター所員紹介

新任



指導員
児玉 考弘
(愛別町立愛別中)

限られた回数回の研修講座で、より即戦力になるようなものを目指していききたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



研究員
林 裕生
(旭川市立神楽岡小)

上川管内の先生方のお役に立てるよう精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



研究員
林 尚輝
(当麻町立当麻中)

上川管内の教育推進に向けて、理論と実践を積み重ね、研究を進めてまいります。よろしくお願いいたします。

所員

所長



伊東 義晃

副所長



石前 聖香

事務部長



北澤 克康

研究事業部長



川村 貴弘
(旭川市立青雲小)

事務係



笹谷 青子

事務係



上光 さゆり

指導員(旭川市立桜岡中)



小林 和博

指導員(旭川市立愛宕中)



野尻 佳世

ICT指導員(旭川市立緑が丘中)



久須美 克典

研究員(旭川市立愛宕中)



片山 泉

研究員(旭川市立新富小)



因幡 明浩

研究員(旭川市立北門中)



荒木 健地

研究員(旭川市立朝日小)



河野 翼

退任 お世話になりました。

○前指導員

平井 佐知(旭川市立緑新小)

○前研究員

近田 泰斗(旭川市立高台小)

○前研究員

三上 貴也(旭川市立中央中)

発行日 令和六年七月一日

発行 上川教育研修センター

〒070-1003 旭川市六条通四丁目
電話(0116) 241-2501

責任者 伊東 義晃